

歴史の町フロイデンシュタット

宇京 早苗

シュヴァーベンの大学町テュービンゲンとアルザスの古都ストラスブールを結ぶ線のちょうど真中あたり、北シュヴァルツヴァルトの高地にフロイデンシュタットという町がある。この町は療養地としても名高いが、正方形に造られた町としても広く知られている。実際、 $220\text{m} \times 220\text{m}$ のほぼ正方形をした中央広場を、整然とならんだ家並がおなじく正方形をなして四重に取り囲んでいる。おそらく上空から眺めたら、それぞれ道路幅分だけ大きく作られた四つの正方形が入れ子状にきちんと収まっているように見えることだろう。このフロイデンシュタットの町は一五九九年にヴェルテンベルク公フリードリヒ一世と建築家H・シックハルトによって建設された。計画の当初、中央広場の真中にはヴェルテンベルク公の城が築かれる予定であったが、近くのクリスタフスタールの銀の

産出が止まってしまったために、築城は実現に至らなかった。しかし、中央広場を囲む家列の正方形の四隅には、教会、市庁舎、商館、病院などの公共の建物が壮麗な姿を見せていた。この町は一六三二年の火災によって荒廃したあと、一九四五年にさらに大きく破壊された。しかし、その後、戦前の町の姿を留めた写真や見取図を基に、ほぼ完全に復元され、再び美しい町並を現わすことになった。

この町の建設には、ヴェルテンベルク公とシックハルト（二人は同い年で、宗教と文芸に対する関心も共通していた）の協力関係が随所に反映されていた。しかし、正方形という町の形状はシックハルトによって提案された。シックハルト自身はその着想をイタリアのチンクエチエント派の建築家G・カタネオの著書から得ていたが、正方形の町は、元来、次のような経路を辿って、チンクエチエント派に到達したのであった。先ずトーマス・モアは「島の国」アマウロトゥムについて「なだらかな丘の傾斜面に位置し、ほぼ正方形をなし……道路は交通のためにも風よけのためにも便利に敷かれ……通りに面して一列に長くならんだ

家並は向い側の家々の玄関から一望できる」状態を描いていた。こうしたモアのユートピアの都市の形態は、さらにその十一年後に発表されたA・デューラーの「理想都市」(一五二七年)に受け継がれていった。デューラーのその都市は、エラスムスを介して、モアの「ユートピア」(一五一六年)から影響を受けていたが、それ以外にメキシコを征服したH・コルテスの『書簡集』(一五二四年)に載っていたアステカ人の都市テノチティトランの正方形の網目状に区画された町からも影響を受けていた。そのあと、デューラーのその正方形の都市はチンクエチェント様式の建築家たちに取り入れられたのであった。

次に、町を建設する場所の決定はヴェルテンベルク公によって行なわれた。北シユヴァルツヴァルトのその地は、ヴェルテンベルク公領地の東部と西部を連結する地点であったのみならず、カトリックのフランスとハプスブルク家のカトリックの地域との中間に位置していた。こうした地理的条件はヴェルテンベルク公の重商主義のおよび宗教政策的な構想にこの上なく適合していた。つまり、彼は銀と銅を産出していた近く

のクリストフスターの鉱山労働者を居住させるために、そしてまたシユタイアーマルクやケルンテンから追放されたプロテスタントを受け入れるためにその町の建設を思い立ったのであった。フロイデンシユタツトが迫害を受けたプロテスタントの保護を主な目的の一つにしていたことは、中央広場の一角に鉤括弧の形をして建っている教会にも窺うことができる。一六〇一年に建設が始められたこの教会にはルター派の個性の強い牧師A・フェリンガーが就任した。教会の内装はすべて彼の希望どおりに整えられたが、その際とくに重要視されたのは(プロテスタントの二礼典である聖餐と洗礼を象徴する)祭壇と洗礼盤であった。

こうした特徴をもつ町であったからこそ、フロイデンシユタツトはその後、プロテスタントの神学者で人文主義者でもあったJ・V・アンドレーエが計画した国家ユートピアの「クリスティアノポリス」(一六一九年)に受け継がれることになった。正方形の広場を中心にして正方形に広がる市街地が堡壘で囲まれたクリスティアノポリスの構想については、フロイデンシユタツトのみならず、(アンドレーエがすでに一六

一七年に知っていた)カンパネラの「太陽の国」の影響も指摘されている。しかし、宗教的迫害を受けた者たちの保護を高らかに謳ったフロイデンシュタットは、とりわけその形状においてプロテスタントの国家ユートピアの表出であったクリスティアノポリスに対しては勿論のこと、それ以後ドイツで建設されることになった(エアランゲンのノイシュタットなど)ユグノーの町の建設にも少なからぬ影響を及ぼしたのであった。

それゆえに、「ユートピア」から「クリスティアノポリス」へと至る流れの途上に建設されたフロイデンシュタットは、その正方形の市街に立つ者に「すべての歴史はまた宗教の歴史である」ことを語っているようにも思われる。

(三重大学教授)